

「多面的・多角的に考えること」

を重点とした道徳科の授業づくり

第1学年 道徳科学習指導案

- 1 主題名「人間として生きる喜び」(内容項目：D-22 よりよく生きる喜び)
- 2 教材名「いつわりのバイオリン」(出典「あすを生きる」日本文教出版)
- 3 主題設定の理由

人間は、決して完全なものではない。時として様々な誘惑に負け、やすきに流されることもある。しかし、誰もがもつ良心によって悩み、良心の責めと戦いながら、呵責に耐えきれない自分の存在を深く意識するようになる。そして、人間としての喜びや人間の行為の美しさに気付いたとき、人間としての誇りや深い人間愛、崇高な人生をめざし、同じ人間としてともに生きていくことへの深い喜びを見いだすものである。

指導に当たっては、自分だけが弱いのではないということに気付かせる。弱さや醜さだけを強調したり、弱い自分と気高さの対比に終わったりすることなく、人間がもつ強さや気高さについて考え、誇りをもってよりよく生きる喜びを見いだそうとする心情を育てたい。

本学級の生徒は、係活動など与えられた仕事に対して責任をもって取り組むことができるが、困難なことに直面したときにすぐに諦め、自分に負けてしまう姿が見られる。これまで、道徳の学習では、よりよい生き方について考えたり、「希望から挫折へ」という教材を通して、人間には弱さとともにそれを克服する強さや気高さがあることについて考えさせたりしてきた。

本教材は、自分の求める音に妥協しない職人氣質の持ち主であるバイオリン職人フランクの生き方について考える内容である。フランクに著名なバイオリニストからの依頼がくる。フランクは、製作済のバイオリンもなく、製作時間も足りないなかで注文を受けてしまう。バイオリンを引き渡す日の朝になっても、納得のいくバイオリンはできなかった。そこで、弟子のロビンが作ったバイオリンに自分のラベルを貼り、依頼主に渡し、最悪の事態を逃れる。その代わりに、職人としての大事なものをなくし、仕事も手につかなくなる。その後、自分の元を離れたロビンから手紙が届く。

中心的な発問では、人間として気高く生きようとするものの大切さについて、多面的・多角的に考えることができるよう、その手紙に涙するフランクの思いを考えさせるために、職人としての地位や名声、言い出せずに日夜胸を痛め続けた様子に着目して話し合わせる。

4 本時のねらい

フランクの涙の意味から、人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることについて考えることをとおして、人間として生きる喜びを見いだそうとする道徳的心情を育てる。

5 本授業のポイント

- ① 師匠と弟子、評判の工房などフランクの置かれている立場を理解した上で、話し合うことで、多面的・多角的に考えられるようにする。
- ② 分かっているのにできない心の弱さについての問い返しをすることで、人間理解を深める。
- ③ 教師自身もフランクに自我関与し、心の弱さが表れた考えを述べたり、これまでの失敗談を紹介したりすることで、自分だけが弱いのではないことに気付かせる。

6 本時の展開

	学習活動 ○主な発問 ・予想される生徒の発言	・留意点 ■評価の観点 等
導入	<p>1 バイオリンに関する動画を観るとともに、人間の心の弱さについて考える。</p> <p>○ 悪いことは分かっているが、ついやってしまうことは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強を後回しにして、ゲームをしてしまう。 ・休みの日なので、つい起きるのが遅くなってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バイオリンに関する動画を観て、ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。
展開	<p>2 教材「いつわりのバイオリン」を読んで、話し合う。</p> <p>○ バイオリンを見つめていたフランクの気持ちを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作れなかったことを正直に謝ろう。 ・一生懸命頑張ったのだから仕方がない。 ・ロビンを裏切ることになる。 ・だまっていればばれない。 ・このままだと、評判が落ちてしまう。 ・上手くいけばさらに有名になれる。 <p>○ フランクの心が重く沈んでいたのはどうしてか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分とはんでもないことをしてしまった。 ・ロビンに申し訳ない。 ・自分のしたことを正直に謝ったほうがいい。 ・ばれたらどうしよう。 ・本当にこのままでいいのだろうか。 <p>○ なぜ、フランクは正直に言い出せなかったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・師匠としてのプライド。 ・心の弱さ。 ・正直に言った後のことを考えると怖い。 <p>◎ ロビンの手紙を読み、フランクは涙を流しながら何を考えていたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こんな自分をまだ慕ってくれてありがとう。 ・師匠として情けない。 <p>3 道徳的価値について自己を見つめる。</p> <p>○ 悪いことだと分かっているけど、ついやってしまったとき、どのようなことを考えましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次はちゃんとやる。 ・バレなければいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誠実なフランクが物欲や名誉欲を考える点に注目させ、人間理解を深めさせる。 ・心が晴れない状況を考えさせるために、フランクに自我関与させて類推させる。 ・ペアやグループ活動を取り入れる。 ・フランクの心の葛藤や弱さについて考えさせ、人間理解を深めさせる。 ・真実を知っているロビンのふるまいに触れる。 ■他者と対話したり、協働したりしながら、人間の強さや気高さについて、多面的・多角的に考えようとしている。 ・これまでの自分の生き方やこれから目指す生き方などを書かせる。
終末	<p>3 学習の振り返りを書く。</p> <p>4 教師の説話を聞く。</p>	